

安全データシート

改訂日:2022年4月4日

1. 化学品及び会社情報	
化学品の名称(製品名)	カルシウム
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	BA0224
2. 危険有害性の要約	
GHS分類	
物理化学的危険性	自然発火性固体:区分1 水反応可燃性化学品:区分2
健康に対する有害性	皮膚腐食性及び刺激性:区分1 目に対する重篤な損傷損傷性及び眼刺激性:区分1
GHSラベル要素	
絵表示又はシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	空気に触れると自然発火 水に触れると可燃性・引火性ガスを発生 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 重篤な眼の損傷
注意書き	【安全対策】 熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。一禁煙。 空気に接触させないこと。 適切な保護手袋、保護衣を着用すること。 適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。 激しい反応と火災の発生の危機があるため、水と接触させないこと。 湿気を遮断し、不活性ガス下で取り扱うこと。 粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 【応急措置】 固着していない粒子を皮膚から払いのけ、冷たい水に浸し、湿った包帯で覆うこと。 火災の場合には適切な消火方法をとること。 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 【保管】 乾燥した場所又は密閉容器に保管すること。 施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
3. 組成、成分情報	
化学物質・混合物の区別	化学品
化学名又は一般名	カルシウム
化学式	Ca
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN: 7440-70-2
濃度又は濃度範囲(含有率)	99%以上
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	該当しない。
4. 応急措置	

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	固着していない粒子を皮膚から払いのけ、冷たい水に浸し、湿った包帯で覆うこと。 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。 皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	乾燥砂を用いた窒息消火、金属火災用粉末消火剤(塩化ナトリウム)
使ってはならない消火剤	禁水、泡消火剤、塩化ナトリウム以外の粉末消火剤
火災時の措置に関する特有の危険有害性	激しい反応と火災の発生の危険があるため、水と接触させないこと。 水と接触すると爆発性ガス及び熱が放出される。 下水溝に流れ込むと火災、爆発の危険がある。 金属火災に水を用いると水素ガスが発生するおそれがある。 水、アルコール、希酸と反応して水素を発生するので、爆発の危険性が発生する。 空気中で燃焼する。
特有の消火方法	火災が爆発に至ったら消火しないこと。 容器内に水を入れてはいけない。 物質が燃えていないとき、物質に水をかけてはいけない。 金属火災には水ではなく、密閉法、窒息法消火が望ましい。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。
二次災害の防止策	水を漏洩物に接触させない。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体排気)	局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。 空気に接触させないこと。 激しい反応と火災の発生の危険があるため、水と接触させないこと。 湿気を遮断し、不活性ガス下で取り扱うこと。 粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 皮膚と接触しないこと。 眼に入れないこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。
接触回避	
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	消防法の規制に従う。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。

安全な容器包装材料	内容物を適当な液体又は不活性ガスの中で保管すること。 激しい反応と火災の発生の危機があるため、水とのいかなる接触の可能性を排除し保管すること。 施錠して保管すること。 ガラス
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度 (出典)	
管理濃度	未設定。
日本産業衛生学会	未設定。
ACGIH	未設定。
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	金属
色	光沢のある銀白色。湿った空気によく露すると青みがかかった灰色に変化。
臭い	無臭
融点・凝固点	842°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	1484°C
可燃性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率 (粘度)	該当情報なし。
溶解度	3.99E+5mg/L
n-オクタノール/水分分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	10mmHg (983°C)
密度及び/又は相対密度	1.54g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性	空气中で酸化して表面に保護膜を形成。反応性はナトリウムよりはるかに小さい。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	水、アルコール、希酸と反応して水素を発生するので、爆発の危険性が発生する。 細かくすると空气中で発火する。 ハロゲンと反応する。 空气中で燃焼する。 水酸化アルカリまたは炭酸アルカリと接触すると、爆轟することがある。
避けるべき条件	細かい状態での空気との接触
混触危険物質	水やアルコールで希釈した酸、ハロゲン、水酸化アルカリまたは炭酸アルカリ、水・泡消火薬剤・ハロン・二酸化炭素などの消火薬剤
危険有害な分解生成物	引火性の高い水素ガス
11. 有害性情報	
急性毒性	該当情報なし。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	" Corrosive. Causes severe eye, mucous membrane, and skin burns." (NFPA (13th, 2006))との記述、および金属カルシウムが水存在下で水と反応してCa(OH) ₂ (pH=12.4(25°C飽和水溶液))を生成し、Ca(OH) ₂ が皮膚及び眼の炎症を引き起こす(既存分類ID811 (NITE)) ことより区分1に分類した。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	" Corrosive. Causes severe eye, mucous membrane, and skin burns." NFPA (13th, 2006)との記述、および金属カルシウムが水存在下で水と反応してCa(OH) ₂ (pH=12.4(25°C飽和水溶液))を生成し、Ca(OH) ₂ が皮膚及び眼の炎症を引き起こす(既存分類ID811 (NITE)) ことより区分1に分類した。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。

生殖細胞変異原性		該当情報なし。
発がん性		該当情報なし。
生殖毒性		該当情報なし。
特定標的臓器毒性（単回暴露）		該当情報なし。
特定標的臓器毒性（反復暴露）		該当情報なし。
誤えん有害性		該当情報なし。
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期 （急性）:	該当情報なし。
	長期 （慢性）:	該当情報なし。
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壤中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国連番号		1401
品名(国連輸送名)		カルシウム
国連分類		4.3
容器等級		II
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		138
15. 適用法令		
化学物質管理促進法（PRTR法）		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔カルシウム〕〔施行令別表9〕(2025年（令和7年4月1日）以降) 危険性又は有害性を調査すべき物〔カルシウム〕(2025年（令和7年4月1日）以降)
消防法		第3類自然発火性物質及び禁水性物質、アルカリ土類金属
16. その他の情報		
引用文献		職場の安全サイト（厚生労働省HP） NITE-CHRIP（製品評価技術基盤機構HP）
その他		記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。